派　遣　報　告　書（報告者；　佐田明美　）

大会名	第 12 回九州女性研修会
開催地	佐賀県唐津市
日　時	平成２７年　３月１４日　～　３月１５日
担当ｹﾞｰﾑ	糸島高校（福岡県）ｖｓ伊万里商業高校（佐賀県）
相手審判	主審・副審：　　佐田　・　東氏（熊本県）

ミーティング内容（主任：　福岡氏（長崎県審判長））

　カンファレンスでは、2 人で協力してゲームを終えるようにすること、男子のゲームを女性 2 人で吹くので、特にシュートやリバウンドに関する高い位置での接触については、トレイルレフリーも目を当てておくことを確認してゲームに入りました。

　お互いに、ゲームの序盤にディフェンスのイリーガルな手の使い方を取り上げることよって、コーチやベンチプレイヤー、上から応援するチーム関係者も協力してくれ、プレイヤーが足でディフェンスをするようになっていた。それが 2 人で協力してゲームを終えられたということではないか、との話をいただきました。一方で、主審として相手エリアを侵してまで鳴らさなければならないケースについて、相手レフリーや先の展開までも考慮して吹いたのならば、それは主審としての責任であるとの言葉もいただきました。さらに、自分が経験したり、見たことのあるような場面が次に出てきたときのために、前もって準備していた引き出しの中から答えを出していかなくてはならないし、同じミスを繰り返さないための判断材料になることもアドバイスいただきました。

今大会に参加しての感想など

　実技の後の講義では、佐賀県の窪田氏から『全国の女性審判との交流を通して感じること』、福岡県の藤城氏から『A級ワッペンの重み』と題して、お話がありました。窪田氏は、日本の女性審判の数は他の国と比較するとかなり多いこと、全国や海外で活躍レフリーはＯＮとＯＦＦの切り替えを早くすることによって、コート上でぶれない為の何かをそれぞれが持っていることを話してくださいました。また、藤城氏からは審判活動をするための環境作りが大切との話がありました。

　大会運営をしながら、女性研修会のお世話までしてくださった佐賀県の女性審判の方々、講師をして下さった正木氏、福岡氏、山崎氏、この機会を与えてくださった御手洗長、大分県協会の方々に深く感謝いたします。